

知られざる恭仁京 謎を解明



いわい・てるよし 1948年、相楽郡木津町（現・木津川市）生まれ。奈良県立大学商学部卒。78年、「木津の文化財と緑を守る会」創設。木津川市文化財保護審議会審議員。写真は木津川市加茂町の恭仁宮跡で。

「知らなかったなあ。精華町まで含むとは。恭仁京って加茂盆地だけだと思ってた」。加茂町瓶原に大極殿跡があるために、加茂の友人の思い込みであった。恭仁京は日本の古代都城の中でもあまり知られていない。奈良時代中ごろの740（天平12）年、聖武天

木津の文化財と緑を守る会会長

岩井 照芳④

皇が平城京から今の木津川市に遷都した都である。わずか3年2カ月であったが、この間に国分寺・国分尼寺造営や壘田永年私財法などの重要な詔が出されている。

恭仁京の特徴は大極殿が左京内にあり、都の中心軸上にはない。従来の都城形態と大きく逸脱している。その理由の合理的説明は誰もできずにいた。

恭仁京研究で有名な故・足利健亮京都大学教授の論文でも同様だ。その上、京の中心軸がどこか分から

ず、都城造営理念にも合わない復元であった。木津に生まれ地形を熟知していた私は、自然地形と合致しない足利説に疑問を抱き、恭仁京復元研究を始めた。32年前のことである。

続日本紀や都城研究書を読みあさり、山野を歩き、何度も地形図と座標で計測した。その結果、恭仁京の京城は木津川市と精華町を含み、特異な都城形態である理由も解明できた。

この研究成果は「泉津と古代都城」と「恭仁京の復元」の2論文にまとめ『古代文化』に発表。さらに古代学協会主催の古代学講座に講師として招かれ、7回に分けて講演した。

木津川市が、実は古代、国家の華々しい中心地であったことは、大きな誇りである。今後も新しい恭仁京情報を発信していきたい。

四季
つれづれ